

24日 水曜

創世記

13:1 そこで、アブラムはエジプトを出て、ネゲブに上った。妻と、所有するすべてのものと、ロトも一緒にあった。

13:2 アブラムは家畜と銀と金を非常に豊かに持っていた。

13:3 彼はネゲブからベテルまで旅を続けて、ベテルとアイの間にある、最初に天幕を張った場所まで来た。

13:4 そこは、彼が以前に築いた祭壇の場所であった。アブラムはそこで【主】の御名を呼び求めた。

13:5 アブラムと一緒に来たロトも、羊の群れや牛の群れ、天幕を所有していた。

13:6 その地は、彼らが一緒に住むのに十分ではなかった。所有するものが多すぎて、一緒に住めなかつたのである。

13:7 そのため、争いが、アブラムの家畜の牧者たちと、ロトの家畜の牧者たちの間に起こつた。そのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。

13:8 アブラムはロトに言った。「私とあなたの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いがないようにしよう。私たちは親類同士なのだから。

13:9 全地はあなたの前にあるではないか。私が別れて行ってくれないか。あなたが左なら、私は右に行こう。あなたが右なら、私は左に行こう。」

13:10 ロトが目を上げてヨルダンの低地全体を見渡すと、【主】がソドムとゴモラを滅ぼされる前であったので、その地はツオアルに至るまで、【主】の園のように、またエジプ



Bible Reference
聖書の記述

トの地のように、どこもよく潤っていた。

13:11 ロトは、自分のためにヨルダンの低地全体を選んだ。そしてロトは東へ移動した。こうして彼らは互いに別れた。

13:12 アブラムはカナンの地に住んだ。一方、ロトは低地の町々に住み、ソドムに天幕を移した。

13:13 ところが、ソドムの人々は邪悪で、【主】に対して甚だしく罪深い者たちであつた。

13:14 ロトがアブラムから別れて行った後、【主】はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいるその場所から北、南、東、西を見渡しなさい。

13:15 わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与えるからだ。

13:16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのように増やす。もし人が、地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えることができる。

13:17 立って、この地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに与えるのだから。」

13:18 そこで、アブラムは天幕を移して、ヘブロンにあるマムレの櫻の木のそばに来て住んだ。そして、そこに【主】のための祭壇を築いた。

「わたしの示す地に行きなさい」と言われた主の導きで歩んできたアブラムですから、ここでも導きに従順であったことがわかりますし、またそれによって正しい選択ができました。

アブラムとロトには争いではなく、互いに尊重し合っていたようですが、財産や人間が多くなって

共に生活するのが困難になりました。この時、主に導かれているのはアブラムですから、ロトにがまんして従えと言えなくもないでしょう。しかし、アブラムは目に見える結果（この場合は自分の権威）よりも主の御心を行つたのです。

またどの地を選ぶかについても、目に見える主の場所に固執しないで、主への従順（この場合はロトとの平和）を選んだのです。

もしも、「自分は神の御心を聞いているのだから」と自分の選択を押し付けていたら、ロトとの間に争いが生まれ、カナン人やペリジ人に攻め入られる隙を与えていたでしょう。その結果、主に従っているように見えたアブラムが、主の計画を成し遂げられなくなるのです。

何をするか、どこに行くか、誰に権威があるか、何が決定されたか…そういうことよりも大切なことがあります。それは主に従順であり、どんな状態でも主の御心を行うということです。

ロトは自分で最善の選択をしたつもりでしたが、主の御心（すなわち価値観）よりも自分の判断を優先したので、トラブルの地に住みました。アブラムは主の約束をいただきました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？